

プロジェクト課題No.2

# 「シャインマスカット」の 産地形成に向けた生産・販売力向上

写真：R4.8月上旬 大郷町M農園

活動期間：令和3年度～令和4年度

対象者：JA新みやぎあさひなぶどう部会 中核的農家5人  
(同部会員20人)

チーム員：横田悦子，守屋明良，山田有子





# 1 課題の背景・ねらい

- ・ JA新みやぎあさひなぶどう部会は平成28年に設立され,令和4年3月時点で部会員30名,ぶどう栽培面積は約1haとなっている。  
「シャインマスカット」はほとんどの部会員が導入しているが,大半は試作的な生産にとどまっている。中核的農家5人は,樹形が概ね完成しており,今後は新たな増収・省力技術を導入することで生産量向上が見込める。
- ・ 現在の出荷販売はJAを通じた産直や個別販売が中心であるが,樹齢の経過や面積拡大による生産量増加を見据え,実需者ニーズを捉えた販売戦略の構築により,部会全体の活性化が期待される。

# 2 活動内容

## (1) 生産技術の高度化・省力化支援

### ① 展示実証ほ設置や省力化器具・資材等の紹介を実施

期待される効果		内容
増収技術	慣行収量比30%増	光反射シートの敷設
省力技術	花穂整形作業時間25%削減	花穂整形器の使用
小房ぶどう栽培技術	消費者ニーズ(手頃な価格)への対応	450g前後の房づくり



●光反射シートの敷設



●花穂整形器



●小房ぶどう栽培方法検討

## ② 栽培管理チェックシートの活用促進

令和3年度シャインマスカット栽培層に基づくチェックシート				※実施した時に□にチェックし、実施日を記入 開花始め及び満開期の月日を記入		
No	チェック項目	作業時期(生育状況等)	内容	チェック	実施日	備考
1	芽かき	展葉5枚の頃	強く伸びた芽や弱い芽をかき、1芽座に2新梢残す。	<input type="checkbox"/>	月 日	
2	(フルメット液剤)の花房散布	展葉6枚から8枚の頃	2ppmを花房に散布する。※定植5年目までの樹とする。	<input type="checkbox"/>	月 日	
3	新梢誘引	展葉9枚の頃	主枝と垂直に誘引、主枝片側1mに5~6本とする。	<input type="checkbox"/>	月 日	
4	光反射シート敷設	開花前	樹形が完成した樹を対象に、主枝下地面に光反射シートを敷く。	<input type="checkbox"/>	月 日	
5	病害防除	開花直前	スリッチ顆粒水和剤2000倍液を散布する。	<input type="checkbox"/>	月 日	
6	新梢の摘心	開花直前~開花始め	葉数が10枚程度になるように新梢の先端を摘心する。弱い新梢はしない。	<input type="checkbox"/>	月 日	
7	副梢の摘心	副梢発生後随時	房基は3枚、房先は1枚残して摘心する。着果させない強い新梢から出た副梢は1枚残して摘心する。摘心は満開50日後まで随時実施する	<input type="checkbox"/>	月 日	
8	アグレプト液剤処理	満開予定日14日前~開花始め	1000倍液を花房に散布する。	<input type="checkbox"/>	月 日	
9	開花始め			<input type="checkbox"/>	月 日	※必ず記録する。
9	花穂整形	1樹で1花穂が開花始めてから	房先4.5cmを残す。主枝1mあたり1.2果房程度とする。	<input type="checkbox"/>	月 日	
10	満開日			<input type="checkbox"/>	月 日	※必ず記録する。
10	ジベレリン処理(1回目)	満開から満開3日後まで	ジベレリン2.5ppm+フルメット2~5ppmで花房を浸漬する。	<input type="checkbox"/>	月 日	
11	軸長の調整	第1回ジベレリン処理5日後	軸長を6cmに調整する。	<input type="checkbox"/>	月 日	

このチェックシートはせん定終了後に回収させていただきます。  
これを基に1年間の作業内容を「振り返り」を翌年度の栽培に活用します!  
~1年間何時、何をしたらか記録が大事~

# 2 活動内容

## (1) 生産技術の高度化・省力化支援

### ③栽培講習会の開催

R3年度（3回），R4年度（5回）



### ④栽培歴作成支援

### ⑤土壌診断に基づいた施肥指導

### ⑥巡回指導 支援対象者毎の目標とする習得技術例



課題	考えられる要因	習得技術
実がつかない(落ちる)	養分競合等	<ul style="list-style-type: none"> <li>摘心や花穂整形, 植物成長調整剤の散布のタイミング</li> </ul>
房の整形, 果粒密着による裂果, 果粒肥大不良	果粒が多い等	<ul style="list-style-type: none"> <li>摘粒時期, 方法</li> </ul>
糖度が低い	養分競合, 水分過多等	<ul style="list-style-type: none"> <li>適正な着果数</li> <li>排水対策</li> </ul>
果皮黄化, 褐変障害「かすり症」発生	幼木	<ul style="list-style-type: none"> <li>着色袋の利用</li> </ul>



# 2 活動内容

## (2) 販売戦略検討支援

粒ぶどう  
(イメージ)



●JAとの販売戦略打ち合わせ



●全農みやぎと統一出荷規格打合せ



●粒ぶどう試験販売支援



●実需者ニーズ調査



●生産者へニーズ調査結果の周知

- 販売会の開催支援
- 消費者へのニーズ調査
- 産地PRパンフレット作成支援

# 3 活動成果

## (1) 生産技術の高度化・省力化支援

### ○増収技術支援（光反射シートの導入）について

- ・ R3試験:収量 31%増, R4試験:収量 22%増

### ○省力技術導入支援について

- ・ 花穂整形器の導入（3名）により、作業が効率化
- ・ 着色袋（収穫作業時期の分散を目的等）の理解が深まり、栽培面積が多い生産者で使用増加

### ○基本的な管理技術の習得支援について

- ・ 改訂した栽培暦やチェックシートを活用し、適切な栽培管理を実施
- ・ 土壌診断結果に基づいた土づくりへの理解促進

### ○ニーズに対応した栽培技術導入支援について

- ・ 小房ぶどう（400～500g）試験ほ結果から、栽培資料を作成し、部会内で導入者が増加



肥大予測と摘粒技術の向上例

（左：7月20日→右：8月10日）

消費者ニーズに応える！  
1房1,000円程度の小さめ「シャインマスカット」の栽培方法

JA新みやぎあさひなぶどう部会では、1房600～800gの房づくりが主流となっています。しかし、贈答用のような大きい房は高値になるため、家庭消費用としては消費費が高い求めにくくなっています。

令和3年度にJAと普及センターで、元気くん市場山台南店のお客さん、ヤマザワ社のまち店とイオンモール富谷店の店員に対してニーズ調査を行ったところ、1房1,000円程度が売れ筋であることがわかりました。

1房1,000円程度となる450g前後（400g～500g）の小さめサイズ「シャインマスカット」の栽培方法について、大郷町生産者園地にて検討したので紹介します。

#### 小房栽培方法

- 開花始期に房先3cm<sup>※1</sup>を残して花穂整形を行う。  
最終着房数<sup>※2</sup>の1.2倍程度の花穂を選んで行い、残りは摘除する。
- ジベレリン処理1回目から5日後くらいに軸長を5cmに切り下げる<sup>※3</sup>。その後、内向き果（上下を向いている果粒）や変形果などを予備摘粒する。
- ジベレリン処理2回目から5日後くらいから最終着房数<sup>※2</sup>を残して摘房する。仕上げ摘粒を行い、袋かけ前までに30～35粒程度<sup>※4</sup>となるようにする。

※1 30cm以上しないこと。  
※2 最終着房数は、これまでに着房数であることを前提に、春園地のこれまでの平均的な着房より小さく十分に定めて摘す。  
例）これまで600gの房づくりを行っていた、主房1mあたり8房としていた場合、新たに450g前後の房づくりを始めるときは主房1mあたり10房程度とする。  
※3 5cm以上しないこと。  
※4 各園地の状況により調整する。

#### ●大郷町生産者園地の栽培概要・品質調査結果

・開花期-始期：6/6、満期：6/13  
・1回目ジベレリン処理：6/14（GA25ppm+CPU3ppm）  
・2回目ジベレリン処理：6/25（GA25ppm）  
①花穂整形：6/10  
②軸長調整と予備摘粒：6/18  
③軸長調整と仕上げ摘粒：6/30

果房重	房長	着粒数	平均一粒重	糖度(°Brix)
434.6g	13.2cm	31.2粒	13.6g	18.6

【問い合わせ先】仙台農産改良普及センター 先端技術第二課 TEL 022-275-8374

調査結果をもとに作成した小房栽培資料



# 3 活動成果

## (2) 販売戦略検討支援

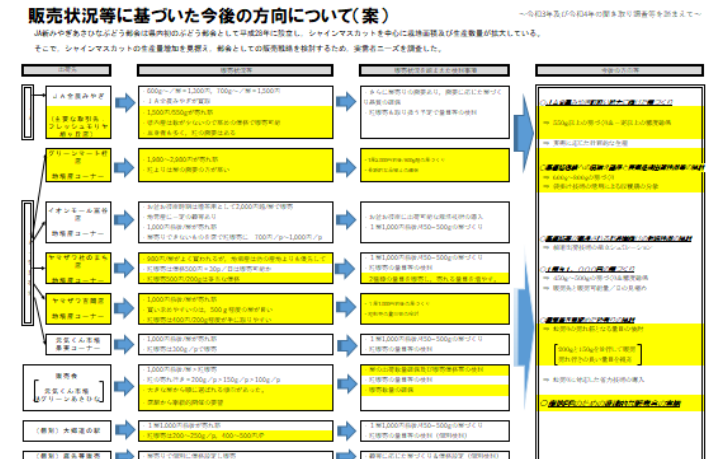
- 産地PR支援について：イベント開催（R3:1か所，R4:2か所）や販売促進パンフレット作成
- 全農みやぎと調整してきた宮城県統一「仙台シャインマスカット」出荷規格・出荷箱の策定，部会オリジナルのパック入り粒ぶどう出荷規格を策定
- 販売先のニーズに応じた栽培技術の共有により，目標とする出荷規格のための栽培技術の導入者増加
- 実需者ニーズ調査結果を基に，役員会で販売戦略を検討(2月開催予定)



イベント開催風景



PRパンフレット



ニーズ調査と今後の方向性資料

# 3 活動成果

## 【定量的目標】

目標値：【R2】 660kg → 【R3】 693kg ( 5%増) → 【R4】 726kg (10%増)

実績：【R3】 957kg (45%増) → 【R4】 1,086kg (65%増)



シャインマスカット販売会 (R4.10)

## 【支援対象者コメント】

生産拡大に向けて、こまめに指導をいただき有難うございます。部会としても生産や販売の方向性が見えて来ましたので、引き続き支援をお願いします。

(JA新みやぎあさひなぶどう部会長)